「力」とするための工夫
教員からのヒント

第11回図書館利用教育実践セミナーin京都
指導サービスの次のステージへ！

2008年3月16日

丸本郁子

はじめに

- ある実験のはなし
- 教育とは
- 情報からの自立

情報からの自立

情報からの自立とは、人として、自分らしく自立する行動ができるようになるために、それを阻害する「思い込み」による偏見や誤解を解除し、その行動1つひとつに情報をチカラとしていくこと。

結城美恵子「情報からの自立」ユック舎 2008.3

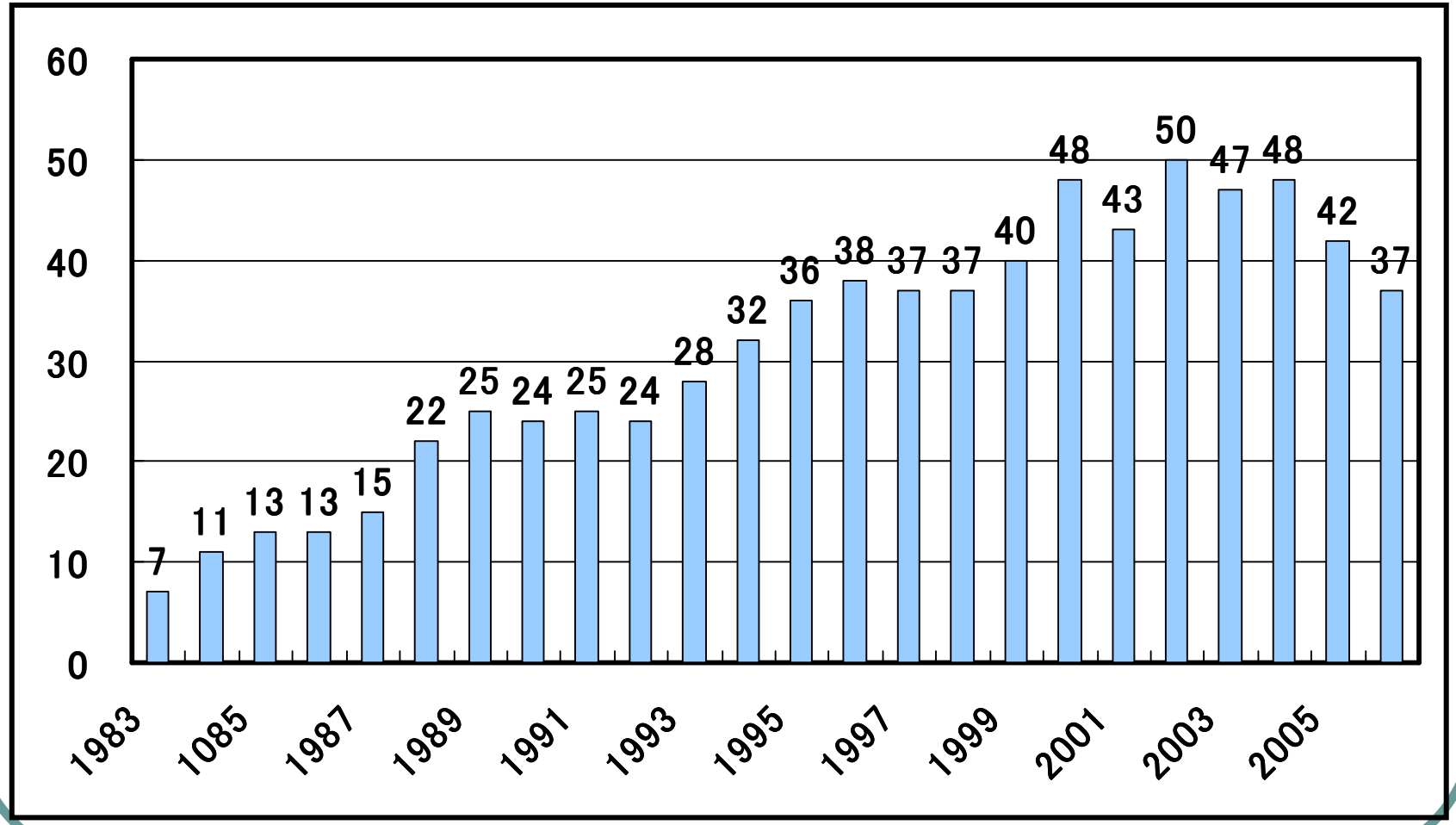
本日のポイント

- 情報リテラシーは力
- 力とするための仕掛け
- 次のステージ

２　情報リテラシーは力の源

図書貸出し冊数の変遷
1983－2006

大阪女学院短期大学図書館



貸出冊数＝主体的学びの指標

教員依存型

↓

自主的学習

何が起こったか

- 83年　利用上昇
  図書館の指導サービス開始
  オリエンテーション＋教科関連指導＋メディア
- 84年　10冊突破
  学科目「研究調査法」設置（選択科目）
- 88年　20冊突破
  カリキュラム改革
- 98年　40冊突破
  学教科必修化
- 02年　50冊へ

カリキュラムの変化　発信型

英語を → 英語で

コンテンツベース
テーマについて
聞き　話し
読み　書く

主体的な情報収集が必要

学生の変化

英語力の向上

- 社会への関心の広がり
- ボランティア活動への参加
- 進学率アップ

確認できたこと

- 資料・情報を集めただけでは利用されない
- 情報の使い方教育には効果がある
- しかし限界がある
- 情報ニーズの自覚が必要
- カリキュラムとの統合が必要
- 図書館の力量認知
- 情報リテラシー教育は実力アップにつながる

コミュニティーのパワーアップのために

それぞれの場で指導サービスの充実を

３　力とするための仕掛け

学科目としての指導で

Why？　なぜ学科目（必修）の実践を語るのか

- 全員をカバーする夢　そしてそれから？
- 大学現場のニーズ　学習力低下対策
  大学生に「学び方」を教える科目の増加
  内容は模索中
- 初等中等教育では減少か？指導要領改訂案
- 対象は同じ　ニーズも共通
- 図書館員として出来ることを探る

4　研究調査法の概要

導入課目としての情報リテラシー基礎

必修　半年　2単位

目標

情報リテラシーの基礎を身につける。自分の選んだテーマの小論文作成を軸に、各種情報源より必要とする情報を探索し、入手、選択、整理し、表現・提供する技法を学ぶ

1週目	情報と人間　論文作成の10ステップ	Step1　テーマの選択
2週目	図書館の使い方　HP案内　分類 レファレンスブック　凡例　索引	Step2　事前調査
3週目	自館資料の探し方　OPAC 自然語　統制語　複合検索	Step3　仮アウトライン
4週目	より広く資料を探す　NDL OPAC Webcat　WebcatPlus	Step4　文献カード作成
5週目	新しい情報を探す　記事索引	Step5　情報カード作成
6週目	新聞情報　切り抜き情報誌 情報の批判的読み　1	情報カード枚数チェック
7週目	インターネット上の情報	Step7　最終アウトライン
8週目	日本語論文の記述法 情報の批判的読み　2	Step8　論文一部作成
9週目	英語情報　探索法　記録法	Step8　序論作成
10週	プレゼンテーション	Step 10　論文提出

５　科目の推移

実態に合わせて

ツールの紹介 → プロセス志向

情報リテラシー重視 → Ｅラーニング化

調査・基準・ガイドライン・事例

学習が受け身で，覚えることは得意だが，自ら調べ判断し，自分なりの考えを持ち表現する力が不十分

教育課程実施状況調査
国際学力調査（PISA調査）

情報リテラシー基準類

- ACRL *Information Literacy Competency Standards for Higher Education 2000*
- ACRL *Objectives for Information Literacy Instruction: A Model Statement for Academic Librarians 2001*

学校図書館での事例

６　力とするための要素と仕掛け

ニーズを創る

擬似モーティベイション

能動的学習への仕掛け1

6000字の小論文作成

学習の自己管理

能動的学習への仕掛け2

仕掛ける手順

- ターゲットを明確に　→
  目標達成までのステップ分析→
  適切なワーク

- 基本パターンを示す→
  共通練習問題→
  各自の課題でワーク

Step 1　テーマの選択

１　あなたが今、興味をもっている事柄を書き出してみましょう。
２　その事柄について最近見聞きしたこと、興味を持った理由などを文章に してみよう。

【小論文のテーマ】

【視点】 書きたいことを時代別、地域別、立場などで絞ってみましょう。特にどの事柄に搾って調べたいか書いてみましょう。

【サブタイトル】
上記の視点を考慮して、何を中心にして書くか、内容がよく分かるサブタイトルをつけてみましょう。

【疑問文を作る】
テーマをどの視点で扱うかが決まったら、それに関してどのような事柄を知りたいのかを、疑問文にして書き出してみましょう。
（答えを書くのではありません。）

Step　2　事前調査

Step　2:　事前調査

1.　キーワード・リストの作成

『現代用語の基礎知識』『知恵蔵』『イミダス』また百科事典などを使って、自分のテーマについて調べなさい。調べた事柄をもとにサンプルを見て「キーワード・リスト」を作成しなさい。

【キーワードを探すには】

a.　索引を使って、自分のテーマに関する事柄を3つみつける。

b.　本文を読んで、自分のテーマに関係のある単語（興味をひいた事柄・事件・人名など）をメモする。その他気付いた関連する単語を付け加えるとよい。

キーワードを入力し、必要な情報を探そう

パターンを示す　プレゼンテーション準備

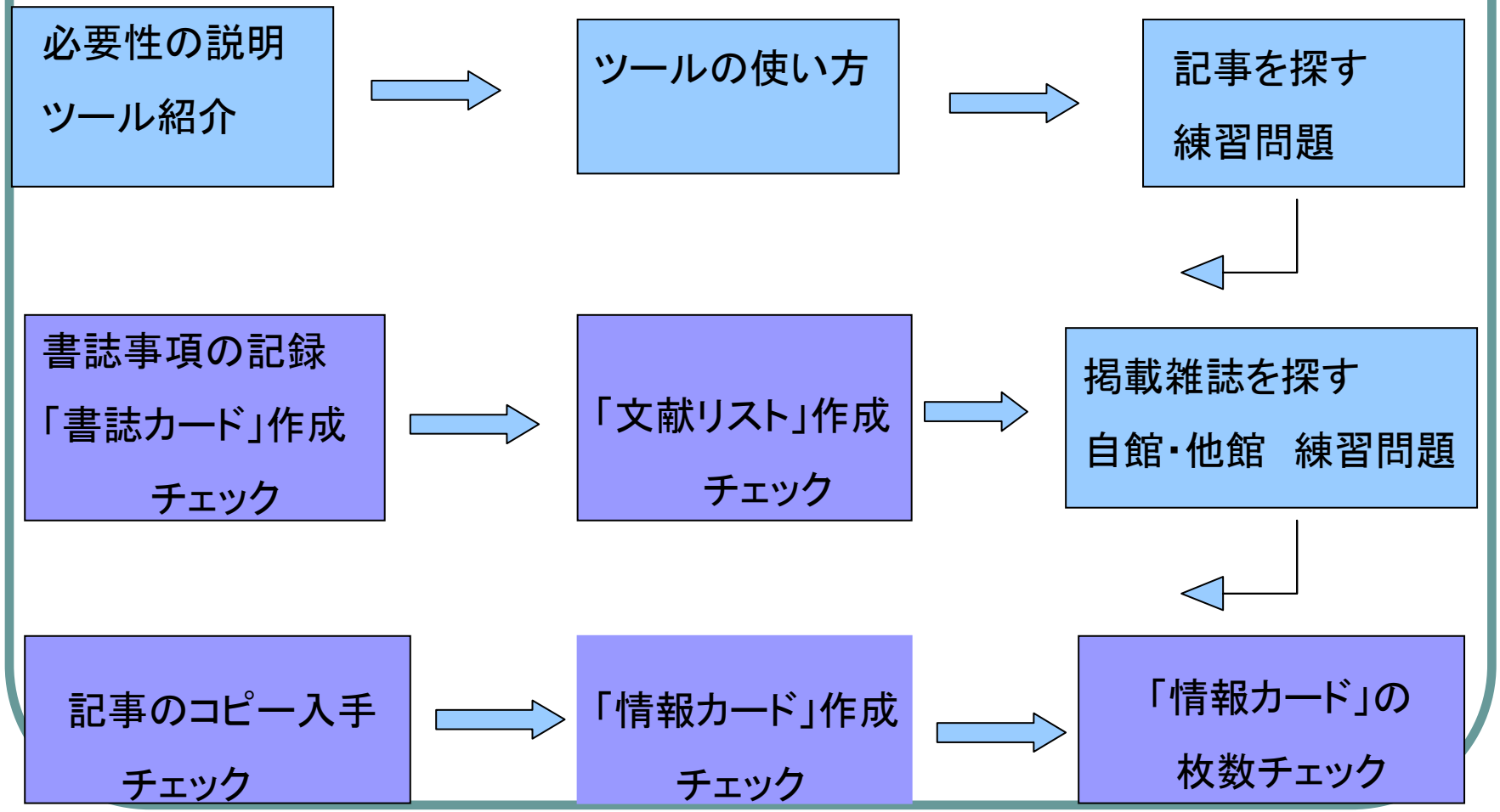
サンプルを見せる → 基本パターンを示す → 各自の作業

（例：プレゼンテーション準備の場合）
主として序論と結論に書いたことをもとに、下記の内容について発表してください。
発表時間は5分程度。以下の項目を箇条書きにして原稿を準備しなさい。

１　論文の題名。
２　何故そのテーマを選んだか。
３　そのテーマについて何が知りたかったか。
４　そのテーマについて何がわかったか。
５　自由コメント。

プロセスに寄り添い丁寧に追う

記事・論文を探す


必要性の説明
ツール紹介
ツールの使い方
記事を探す
練習問題
書誌事項の記録
「書誌カード」作成
チェック
「文献リスト」作成
チェック
掲載雑誌を探す
自館・他館　練習問題
記事のコピー入手
チェック
「情報カード」作成
チェック
「情報カード」の
枚数チェック

書き方：　引用法、出典表示など

ルールの説明

サンプル文を用いて書く練習

「AとBの論文を引用しながら、トッピックセンテンスに続けてパラグラフを書きなさい」

回答例のモデル文を示し具体的に説明

各自の資料（情報カード）を用い自分の論文の１節を書く

サンプル文AとBを用いて、引用文献目録を書く

実態の確認

- 作文「私と図書館」 最初の授業の
- プロジェクト・課題の提出
  コメントと共に、素早いフィードバック
- 軌道修正が可能
  「手遅れの評価」としないために

時　間

- 消化するため
- 深く考えるため

- 反復練習

  他の場面での応用

  ↓

  他教科の教員との情報共有

発　見･驚　き

- 新聞記事の比較

パラサイト・シングル

7割は「しっかり者」

国立研究所調べ

まんが・堀田ユキオ

給料、家計の足しに 年金の加入率も高く

産経(朝) 2001.6.-6

2001.6.6 「神戸」

6割が親に寄生!?

パラサイト・シングル初調査

定職持ち同居続ける

独立しない若者、許す親

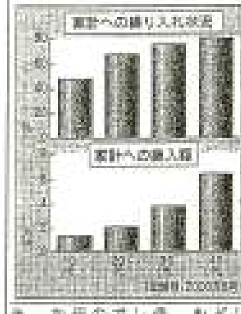
「パラサイト・シングル」の就労形態

親元離れない「パラサイトシングル」

3割は食費も親がかり

国立社会保障・人口問題研究所調べ

堅実に貯金／旅行楽しむ



2001.6.-6 日経(朝)

国立研究所調査

パラサイト・シングル

生活ぶりは意外に堅実？

2001.6.19 朝日(朝)

親と同居の独身者

パラサイト・シングル

63%が定職、家計少し負担

7割は「しっかり者」

国立研究所調べ

親と同居しながら〝裕福な生活〟を楽しむ「パラサイトシングル」と呼ばれる未婚男女の約七割が、給料の一部を家計に入れたり、貯蓄をするなど実際は堅実な生活をしていることが、国立社会保障・人口問題研究所（東京都千代田区）の実態調査で分かった。男性の約八割、女性の七割弱がフルタイムで仕事をしており、年金加入率（約九割）も高い。親のすねをかじりながら生活するイメージが先行するパラサイトだが、経済的に自立している人が多い実態が浮かび上がった。

まんが・篠原ユキオ

6割が親に寄生？

パラサイト・シングル初調査

独立しない若者、許す親

定職持ち同居続ける

社会人になっても親と同居する「パラサイト・シングル」と呼ばれる未婚の男女を対象とした厚生労働省の初の実態調査で、六三%が定職を持ち、一定の収入がありながら同居を続けていることが四日分かった。

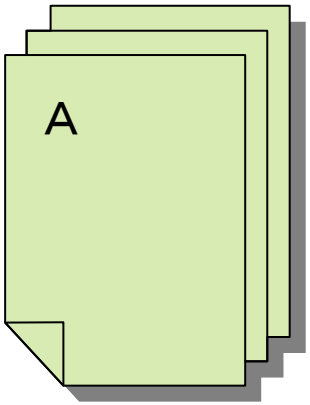
パラサイトは「寄生するもの」「居候」などを意味する英語。調査では、生活費を一部負担するなど、親への一方的依存ではない側面も明らかになったが、同時に独立しない若者と、それを許容する親という新しい家族像が生まれつつあることも浮き彫りになった。

パラサイト・シングルしている。

調査は厚生労働省所管の国立社会保障・人口問題研究所が実施。二〇〇〇年六月現在で、学生を除く十八歳以上の未婚の子供が同居する二千六百六十七世帯と、子供本人約三千四百人を対象に生

「パラサイト・シングル」の就労形態

発　見・驚　き　　記事・論文の比較

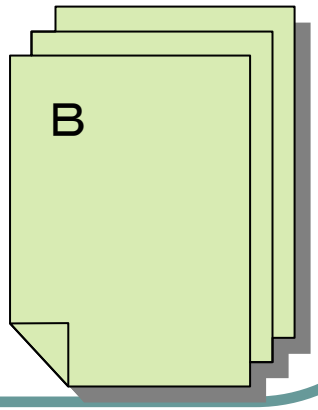


Step1 まずAの論文を課題として与え、著者の意見をまとめさせ、それについて自分はどう思うかを書かせる。

発表をさせる。

Step2　次にBの論文を渡し、著者の意見をまとめさせそれについて自分はどう思うかを書かせる。

発表させる。



Step3 両方を読み比べて、感じたことを発表さす。

作品A

国民の油断
歴史教科書が危ない！
西尾幹二・藤岡信勝
Nishio Kanji & Fujioka Nobukatsu
PHP文庫

作品B

二つの驚き

- 資料の立場による違い
- 簡単に左右される自分自身の危うさ

- 一つの立場の文献に依存する危険性
- 批判的に用いなければならないとの気付き

「悪文」の効用

- 従来のテキストは見本となるような「良い」「立派な」文章であった。
- 学生はテキストは批判の対象とならないと刷り込まれている。
- 論理の矛盾、にせの例証、安易な単純化、根拠のない思いこみ、意図的なウソ、事実と意見の混乱・・・などの発見をする

論拠を求める

- どうしてそう言える？
- なぜそう思うの？

評価法

- 論文60 ＋ 提出物20 ＋ 試験20

- 「国境なき医師団」
- 「効果的なダイエット」
- 「ブラックホールの謎」
- 「小学校への英語教育導入」

- 専門科目の論文との評価の違い

論文評価表　A3点　B2点　C1点

1	形式：表紙（必要情報）	A	B	C
2	アウトライン	A	B	C
3	本文：パラグラフ	A	B	C
4	：注	A	B	C
5	：引用	A	B	C
6	：出典表示記述形式	A	B	C
7	：用語・文体	A	B	C
8	引用文献目録：数量	A	B	C
9	：タイプ	A	B	C
10	：出版年度	A	B	C
11	：記述形式	A	B	C

論文評価表

12	序論：命題・・・・・・・・・・・・・・・・・・	A	B	C
13	：論文の目的・・・・・・・・・・・	A	B	C
14	：テーマの範囲・・・・・・・・・・	A	B	C
15	：調査方法・・・・・・・・・・・・・・	A	B	C
16	本論：論理的展開・・・・・・・・・・・	A	B	C
17	：充分な証拠・・・・・・・・・・・・・・	A	B	C
18	：内容的満足度・・・・・・・・・・・・	A	B	C
19	結論：序論の目的を達しているか	A	B	C
20	：本論から適切に導き出されているか	A	B	

自己評価　論文提出と同時に提出

論文作成過程評価表

１　論文作成の１０のステップを書きなさい。
２　各ステップをどのように行ったかを評価しなさい。
　　うまくいった事、困った点、反省など、
　　次の論文作成に生かせるように記しなさい。

Step 1
Step 2
Step3　・・・

7　学生の評価　　コメントから

- 始めは論文なんて自分に書けるのか不安でした。完成して今はとてもうれしいです。自分でも出来るのだとの自信がつきました。今は充実感でいっぱいです。
- すごく大変だったけれど、とても楽しかった。
- 今まで使わなかった様々な資料を知り、図書館の面白さが分かった。これからもっと利用したい。
- 始めは身近なテーマ（ファストフード）と思っていたが、奥が深い問題だと知った。
- 一つの作品を仕上げる大変さが分かった。著作物を尊重しなければならないと思った。
- 立場によって意見が異なることを実感した。これからは気をつけて読もうと思う。

８　達成できたもの

- 意識の変革：問題解決には適切な情報が必要と実感し、簡単ではないが楽しいプロセスと理解し、　自分にも出来るとの自信を持つ
- 問題解決プロセスの経験：疑問を認識し、新しい情報を得、既存の知識と勘案し、新しい知見を構築し、根拠に基づき、適切な形で表現・発表していく
- 情報の性格の理解：あくまで製作者の見方・立場・意図・限界内で表現されたもの

８　達成できたもの

- 製作物への敬意：苦労して書いた経験から生まれる尊敬の念。
- 情報読み取りのポイント：筆者の立場を理解し、考察を加え、必要な部分を抜き取る
- 情報源としての図書館の有用性の認識と利用法

９　確認できたこと

- 人間とは、もともと興味・関心を持って、自ら学んでいくもの
- 出会い・気付きで変わる
- 図書館からのバックアップの必要性
- 図書館独自の指導へのニーズ増加
- 専門的情報、新情報は図書館で
- 「私」（図書館員）の限界
- 教員不足

10 次のステージへ

１仮に、このレベルが最低ラインなら
　だれが、どこで、この力を保障するか？
２卒業後は？　進学しない人たちへは？

次のステージへ

- 大学での独立学科目の場合
  導入教育レベル　図書館員
  専門教育レベル　教員＋図書館員

- 図書館員はパスポートを
  社会的認知が必要
  プロフェッショナルとしての力

次のステージへ

- 指導サービスの輪を広げよう！
- 「情報からの自立」支援を！

人として、自分らしく自立する行動ができるようになるために、それを阻害する思い込みによる偏見や誤解を解除し、その行動一つひとつに情報をチカラとしていくこと。

結城　美恵子

おわり

ありがとうございました

資　料

- 日本図書館協会利用教育委員会『図書館利用教育ガイドライン合冊版：図書館における情報リテラシー支援サービスのために』日本図書館協会　2001
- 同上『図書館利用教育ハンドブック　大学図書館版』日本図書館協会　2003
- 「特集：情報リテラシーの育成と図書館サービス」『現代の図書館』 vol. 45 no.41 (2007.12)
- 丸本郁子「情報リテラシー教育の評価」『大阪女学院短期大学紀要』 no.30 .(2001)
- 結城美恵子『情報からの自立』ユック舎　2008.3
- ACRL Standards & Guidelines http://www.ala.org/ala/acrl/acrlstandards/standardsguidelines.cfm